◇

吾々が代々の共に餘すべからざる重度のかれ居りなから同室見事なる何者が[illegible]
[illegible]を控えて分り申し上げるのは一に第一報の恥を出来得る丈内輪の事
を内輪にといわれて置きたいと云ふ[illegible]北心の為に[illegible]ならなかつたのであります。

然るに此年六月に入りてよりの各重役の態度は年餘の不給に疲弊
困憊の極に達せる社員の弱点に乗じ無情至らざるなく遥々一社員が彼
等のために立替えたる紙代金四百円也の僅倍に蓋ふや言を左右にして云ふ
が支拂に応ぜず「この上暴力ただし」と放言する等天人共に許さざる実
の寧ろ狂氣の沙汰とも言ふべき言動を為したのでありますが、しかも年餘の生活
苦に疲れ果てたる社員の大部分は此の断じて許容さるべからざる
非常識に直面してすら なほ手を束ねて彼等を導くに委せ彼等自ら
掘る所の墓穴の中に引き込まれ乍ら何等施すべき對策を講ず
るの餘裕なく茫手として人間当然の權利を忘れ果てゝ居つたのであります。

◇

吾等一覚が押へて押え堪ずず制して制してきれざる正義の叫びを挙げ
ましたのは実に余りに僅和なる各社員を以て際伊藤の公より救は
ざれば社も人も遂に没落自滅の悲憤に陥るの外なし方なき状
を座視するに忍びなかつたのに出るもので他意なき儀
であります 従つて吾々は吾々の行動を悪心の正義に出たものと